

平成24年度優先施策

文化芸術活動への支援と文化の創造

平成24年3月15日

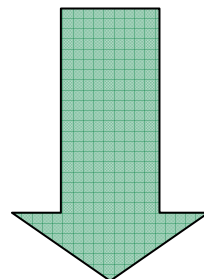
長野市文化芸術振興審議会資料



I 長野市民会館建設事業（2億4,706万7千円）

新市民会館整備関係事業費（整備関係事業全体の予算執行は総務部が担当）

- ・実施設計、旧市民会館及び市役所玄関棟解体
- ・具体的な実行計画となる「新市民会館運営管理実施計画」の策定などに伴う劇場コンサルタントへの業務委託 など



新市民会館のソフト関連事業として、運営管理基本計画の策定に引き続き、実施計画の策定を教育委員会が担当



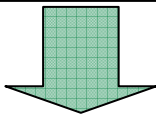
Ⅱ 子どものための文化芸術プログラム（1,538万8千円）

1 必要性

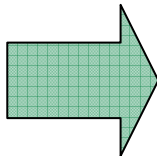
① 世論調査から

（H21. 11月内閣府調査 無作為調査3,000人、有効回収数1,853人 ）

回 答	率
（問）住んでいる地域の文化的環境を満足できるものとするために、何が必要だと思うか 1位 「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」を挙げた者の割合 2位 「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」	38.9% 28.6%
（問）子どもの文化芸術体験についての重要事項 1位 「学校における公演などの鑑賞体験の充実」を挙げた者の割合 2位 「地域の文化施設における子ども向け鑑賞機会や学習機会の充実」を挙げた割合	58.3% 49.5%



多くの方が、地域の文化施設等で子どもが文化芸術に接する機会を充実することが重要であると認識



子どもたちにとって、文化芸術は「豊かな感性を育てる」ものであり、心を育てるには行政のみならず、家庭（親子）が一体となった継続的な取り組みが必要

② 本市の方針

「長野市文化芸術振興計画」推進に当たっての基本的な考え方（H23,7審議会）

「子どもたちへの鑑賞機会の充実・各種プログラムの積極的な展開」を柱とした事業を最優先の課題として捉え、施策の充実を図る。

2 事業概要

(1) 想定事業

対象・分野	内容	会場・開催日
a小学生親子対象 演劇鑑賞会	子どものためのシェイクスピア(演劇)	ホクト文化ホール 8月18日(土)
b小学生親子対象 音楽鑑賞会	青島広志の世界わくわく音楽紀行 withブルー・アイランド楽団	ホクト文化ホール 9月1日(土)
c3歳以上の親子 音楽鑑賞会	音楽の絵本 ズーラシアンブラス	若里市民文化ホール 9月17日(月)
d小学6年生対象 ミュージカル鑑賞会	劇団四季こころの劇場 ファミリーミュージカル (学校単位)	ホクト文化ホール 9月11日(火)
e小学生親子対象 文化講演会	長野の歴史を学ぶための親子講演会(演題未定)	生涯学習センター 開催日未定
f小学生～中学生 ジュニア団体育成	長野市児童合唱団、長野ジュニアコーラス合同ワーク ショップと発表会(内容未定)	若里市民文化ホール 開催日未定

(2) 事業選定理由

- 公演の趣旨が、本市の文化芸術振興の理念と合致している
- 全国の公共ホールで実演され、鑑賞者の支持・評価の高い事業
- 会場仮予約日と会場規模、公演者のスケジュールが合致
- 手頃な入場料の設定が可能なもの

(3)具体的な事業内容

a子どものためのシェイクスピア

- ・特徴 難しいと思われがちなシェイクスピアの作品は、いつの世も変わらない人間の感情や人間関係が描かれており、それは、子どもたちの世界にも通用し、感性豊かな子どもたちをはじめ、初めて演劇を観る人から識者の方まで、幅広い層の観客を魅了している。→このシリーズ作品「マクベス」は、2009年度厚生労働省児童福祉文化賞や紀伊国屋演劇賞 団体賞を受賞している。
- ・編成 キャスト10名
- ・予定 8月18日(土) ホクト文化ホール 1回公演 親子500組対象

b青島広志の世界わくわく音楽紀行 withブルー・アイランド楽団

- ・特徴 作曲家、ピアニスト、指揮者として、また、NHK「ゆかいなコンサート」の初代監督や「題名のない音楽会」のアドバイザーなどを務め、愉快的話術でもおなじみの同氏が、室内オーケストラと共に、見て聴きながら音楽に親しむことを目指し、小学生親子を対象にオペラ、バレエなどの名曲を演奏する。
- ・編成 18名によるコンサート
- ・予定 9月1日(日) ホクト文化ホール 1回公演 親子1,080組対象

C音楽の絵本 ズーラシアンブラス

- ・背景 『第5回キッズデザイン賞』において最優秀賞 フューチャーアクション賞(経済産業大臣賞)を受賞(2011/8/3発表)

→子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動などが対象
(審査員のコメント)

一流演奏家を起用した妥協のない演奏、本物らしさを追求した意匠性など、親子で楽しめる質の高さを備え、子どもが音楽に興味を持つ入口として秀逸なコミュニケーションプログラムである。(抜粋)

- ・特徴 歌詞に頼らないクラシックの世界では、絵本のような分かりやすい入り口がなかった。そこで、クラシック音楽における絵本のような役割を果たしていきたいと考え、子ども達の音楽への興味を沸き起こし、これから花開く可能性を持った素晴らしい感性の導火線に火をつけることを目的に、音楽の素晴らしさを知る糸口を提供している。

- ・編成 9名によるクラシックコンサート

- ・予定 9月17日(月・祝日) 若里市民文化ホール 2回公演 親子600組対象

d劇団四季「こころの劇場」

- ・特徴 劇団四季のこころの劇場は、全国各地の児童(6年生)を劇場に招待し、「生命の尊重」、「友情と助け合い」など、社会生活を営んでいく上で欠かすことのできない大切な「こころ」を育てるとともに、優れた舞台芸術に触れるきっかけを与え、明日への活力を生み出すことを目指している。
- ・実績 2011年度 「演目」はだかの王様 開催都市81自治体 招待児童数56万人
→公演料は公益財団法人ニッセイ文化振興財団、(株)三菱東京UFJ銀行、JR東海、みずほ銀行、TOYOTAなど23の企業などが支援し、各自治体は、会場費用を負担する。
- ・予定 9月11日(火) ホクト文化ホール 1回公演 市内小学6年生(学校単位)

e長野の歴史を学ぶための親子講演会(演題未定)

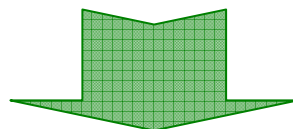
- ・内容 親子で郷土の歴史や伝統文化などを学ぶことを通して、市内に存在する多くの有形無形の文化資源に興味を抱くきっかけ作りを図るとともに、さらに、郷土の文化資源に親しみ、愛着をもつことを目指す。
- ・予定 開催日未定(生涯学習センター) 小学生親子100組対象

fジュニア団体育成

- ・対象 長野市児童合唱団(29名)、長野ジュニアコーラス(142名)
- ・内容 小中学生が学校の枠を超えて協力し合い、互いに学び合うために発表の場を提供する事業で、合同ワークショップと発表会の開催
- ・予定 開催日未定(若里市民文化ホール)

3 年度計画

ジャンル	24年度	25年度	26年度	27年度
音楽(クラシック・オペラ)	○	→	→	新市民会館の自主事業に移行 多くの地元団体による公演の実現
演劇・ミュージカル	○	→	→	
ダンス・バレエ		→	→	
古典芸能・伝統芸能		→	→	
世界の民族音楽など		→	→	
文化芸術関係の講座など	○	→	→	
事業費(千円)	15,388	(未定)	(未定)	



段階的に、文化芸術の広がりや深さを学ぶよう、多様なジャンルを展開

- ホールの活性化は、人々が行き交い交流することで「まちに賑わい」をもたらす。
- 文化芸術事業は教育機関、企業、大学、福祉分野などとの様々な連携や地域資源（自然環境・観光資源など）との連携プログラムが可能である。
- 市民が様々な方法で文化芸術に触れる機会の拡大を図るため、新市民会館においては、新たに、鑑賞事業や普及事業のほか、人材育成や作品創造などを行う自主事業に積極的に取り組むことを基本方針とした。
- 新市民会館で4つの役割「育む」、「楽しむ」、「創る」、「つなぐ」を果たすために自主事業を効果的に実施する必要がある。



そこで

学術機関等と連携

本市のホールを中心とした文化環境の実情調査を行い、ホールの活性化を図るために、どのような事業を展開することが効果的かを検証しながら、新市民会館での自主事業の構築につなげる。

また、併せて学術機関と文化芸術団体などとのネットワーク作りについて研究するもの。



IV街角に音楽があるまちづくり事業 (280万円)

- 音楽に親しむ多くの団体などが、個々にコンサートを開催するレパートリーや資力が乏しくなかなか発表の機会がもてない現状にある。また、多くの市民が、忙しさなどからホールまで出向いて鑑賞する機会がもてない現状にある。

そこで

市民による街角コンサートの実施

長野駅コンコースや中心市街地で合同コンサートを開催し、発表機会と鑑賞機会の確保を図るとともに「まちなか」に音楽のあるまちづくりを目指すもの。

事業内容

項目	24年度	23年度
開催回数	年12回	年6回
開催場所	長野駅コンコース、TOIGO広場、上千歳公園	長野駅コンコース
実績・予定	72団体(小中学校12校、一般60団体)	46団体、675人出演



V 野外彫刻ながのミュージアム事業 (2,151万2千円)

昭和48年にスタートした野外彫刻ながのミュージアム事業により、作品数は22年度末で139点となり、民間事業者等の設置も含めると200点を超え、日本有数の野外彫刻都市となった。

そこで

中心市街地に新たに3点設置

•全国的にも毎年、継続して作品を設置している都市の例はなく、今後も継続して作品を設置することにより、日本を代表する野外彫刻都市として、さらに歴史と伝統を重ねるもの。

野外彫刻めぐり年6回開催

野外彫刻写真コンテスト実施及び同作品展の開催

既存設置作品の維持管理

キッズ・ツアーズの開催(随時受付)